

平成27年第2回定例会

人口減少対策調査特別委員会 提出資料（2）

- 1 高校生・保護者アンケートの集計結果について

平成27年10月13日

戦略企画部

高校生・保護者アンケートの集計結果

県では、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」及び「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画（仮称）」の策定に向け、若年層の流出防止や一旦流出した者の再流入を促進する対策の検討に向けた基礎資料とするため、県内高校生及び保護者を対象としたアンケート調査を実施し、進学、就職、定住等に関する意識を定量的に把握しました。

調査の概要及び集計結果については、以下のとおりです。

【調査の概要】

- 1 調査期間 平成26年12月
- 2 調査対象 県内の県立及び私立高校に在学する高校2年生とその保護者
- 3 調査対象数 5,440組
- 4 抽出方法 県内を5地域に分け、学校の所在地域毎に抽出率を設定の上、学校単位で等間隔無作為抽出により抽出
※北勢地域：1/6、中勢地域1/4、南勢志摩地域1/2、伊賀・東紀州地域：1/1
※県立高校58校、私立高校11校 計69校で実施
※高校2年生の総数 16,415人
- 5 調査方法 対象者に学校から配布の上、直接回収又は郵送により回収
- 6 有効回答数 3,467組（有効回答率 63.7%）
- 7 調査項目 高校生アンケート及び保護者アンケート共に、「定住意向」、「進路」といった共通部分と、「大学・短大進学」、「専門学校進学」、「就職」の各進路別の個別部分から構成
- 8 集計方法 学校の所在地域毎に抽出率を変えているため、集計結果の表示にあたっては、補正ウェイト（抽出率の逆数）を乗じて補正（例：北勢地域の補正ウェイト6）をしています。調査結果は、補正後の集計結果を表示しています。

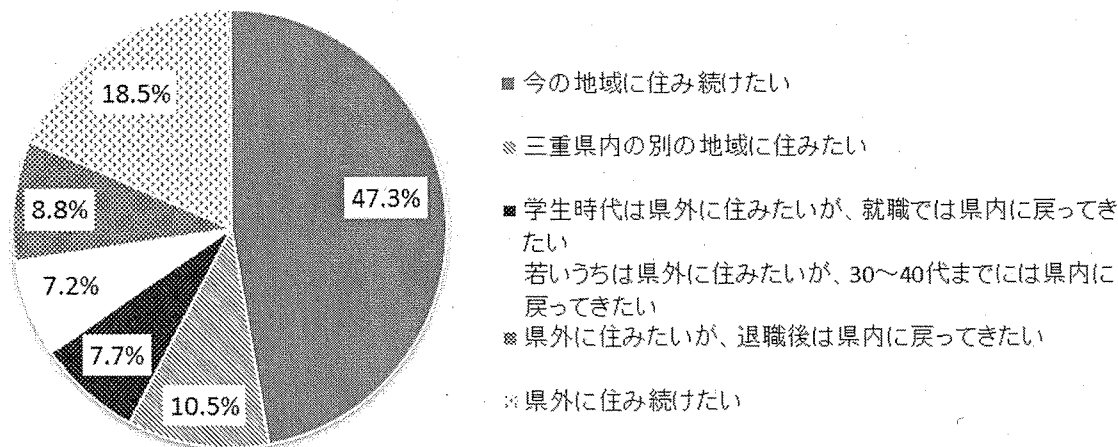
【集計結果】

1 定住意向及び卒業後の進路について

今回の高校生アンケートの結果から、全体の47.3%が「今の地域に住み続けたい」と考えており、「三重県内の別の地域に住みたい」の10.5%を加えると、全体の57.8%が県内に住み続けたいと考えていることがわかりました。

【高校生アンケート】

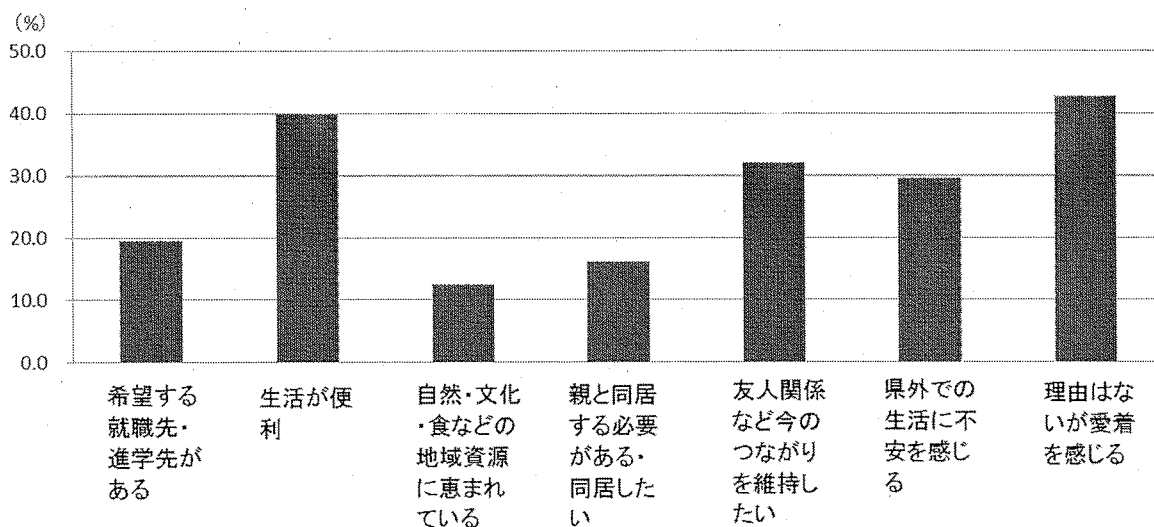
問5 現在、住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか。あなたの「希望(できればこうしたい)」を教えてください。



「今の地域に住み続けたい」と考えている方に、その理由を尋ねたところ、「理由はないが、愛着を感じている」を選択された方が最も多く42.6%、次いで、「生活が便利」が39.8%、「友人関係など今のつながりを維持したい」が31.9%となっており、生活上の利便性の確保とともに、地域への愛着を育む郷土教育の推進や地域との関わりを深める取組の推進が必要であると考えられます。

【高校生アンケート】

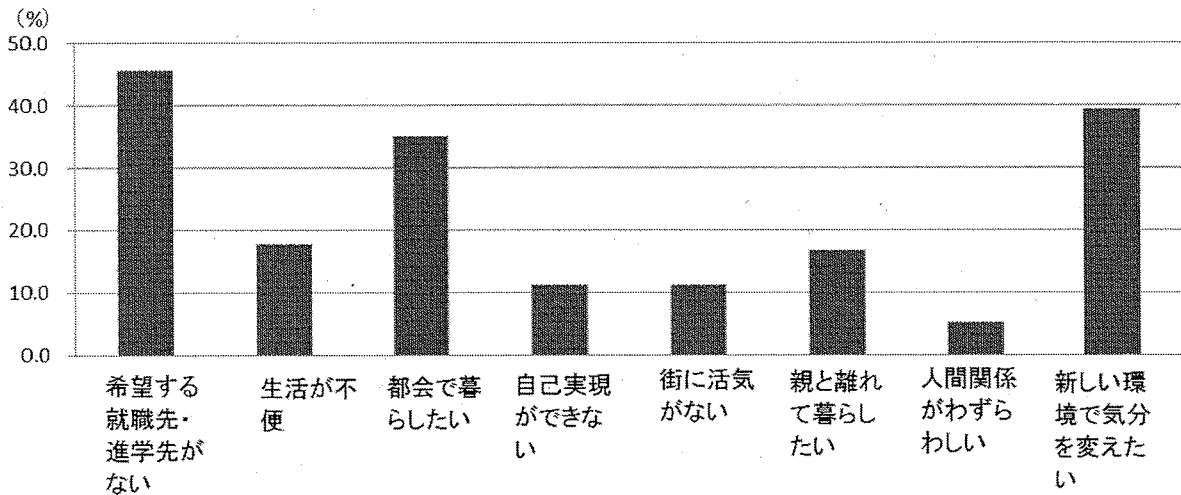
問5-2 問5で1を選ばれた方だけに質問します。今の地域に住み続けたい理由を教えてください。(複数回答)



一方、「今の地域に住み続けたい」以外を選択された方に、その理由を尋ねたところ、「希望する就職先・進学先がない」が最も多く45.7%、次いで、「新しい環境で気分を変えたい」が39.4%、「都会で暮らしたい」が35.1%となっており、学びの選択肢の拡大や良質で多様な雇用の創出、雇用のミスマッチの解消に向けた取組を推進するとともに、三重での暮らしの魅力を伝える取組を推進する必要があると考えられます。

【高校生アンケート】

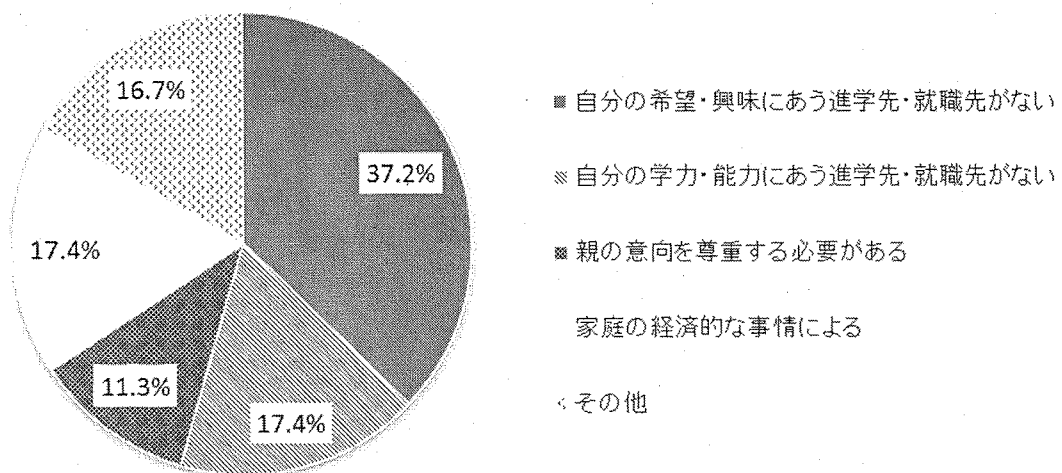
問5-3 問5で2~6を選ばれた方だけに質問します。今の地域から転出を希望する理由を教えてください。(複数回答)



また、定住意向について、「希望 (できればこうしたい)」と「現実 (たぶんこうなると思う)」を尋ねたところ、全体で3,888人が希望と現実が異なるだろうと考えており、「自分の希望・興味にあう進学先・就職先がない」が37.2%で最も多く、次いで、「自分の学力・能力にあう進学先・就職先がない」と「家庭の経済的な事情による」が17.4%となっています。この結果からも、学びの選択肢の拡大や良質で多様な雇用の創出、雇用のミスマッチの解消に向けた取組の推進が求められていることが読み取れます。

【高校生アンケート】

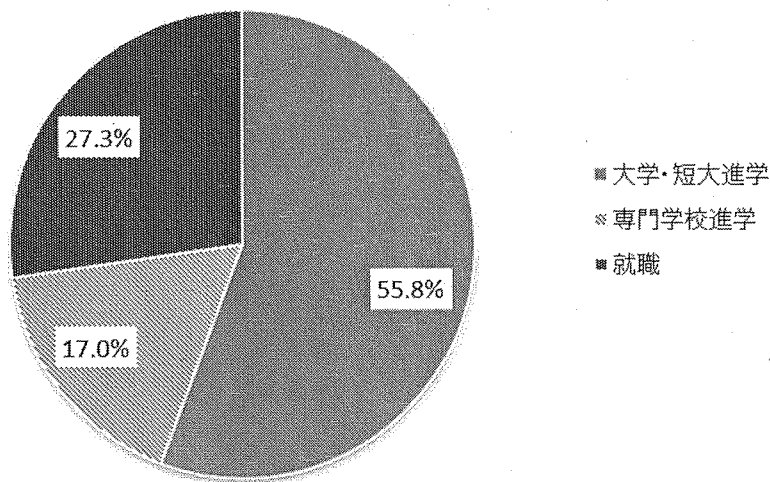
問7 問5と問6で回答が異なった方だけに質問します。「希望」と「現実」が異なる理由を教えてください。



現時点での卒業後の進路について尋ねたところ、「大学・短大進学」を選択された方が55.8%と最も多く、次いで、「就職」が27.3%、「専門学校進学」が17.0%となっています。

【高校生アンケート】

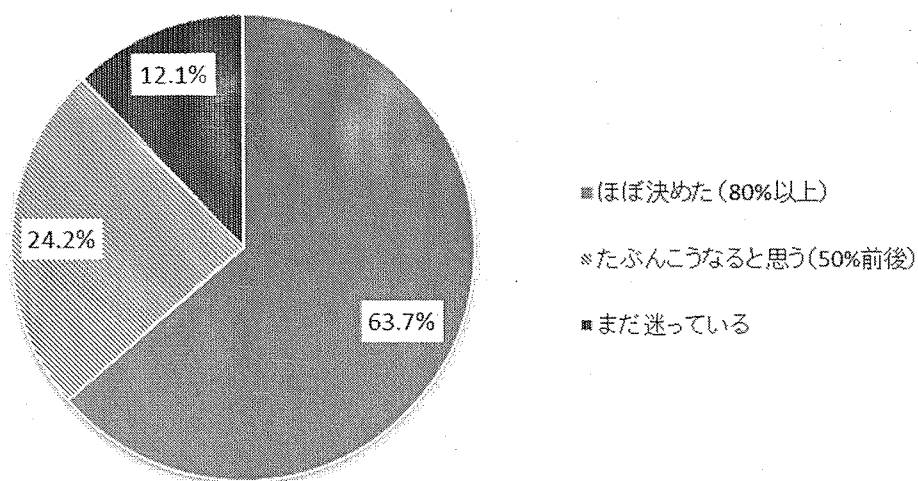
問8 現時点であなたが希望する卒業後の進路を教えてください。



現時点での進路の確かさについて尋ねたところ、「ほぼ決めた(80%以上)」を選択された方が63.7%と最も多く、次いで、「たぶんこうなると思う(50%前後)」が24.2%、「まだ迷っている」が12.1%となっています。

【高校生アンケート】

問8-2 問8の「確かさ」について、自分の考えに近いものを教えてください。

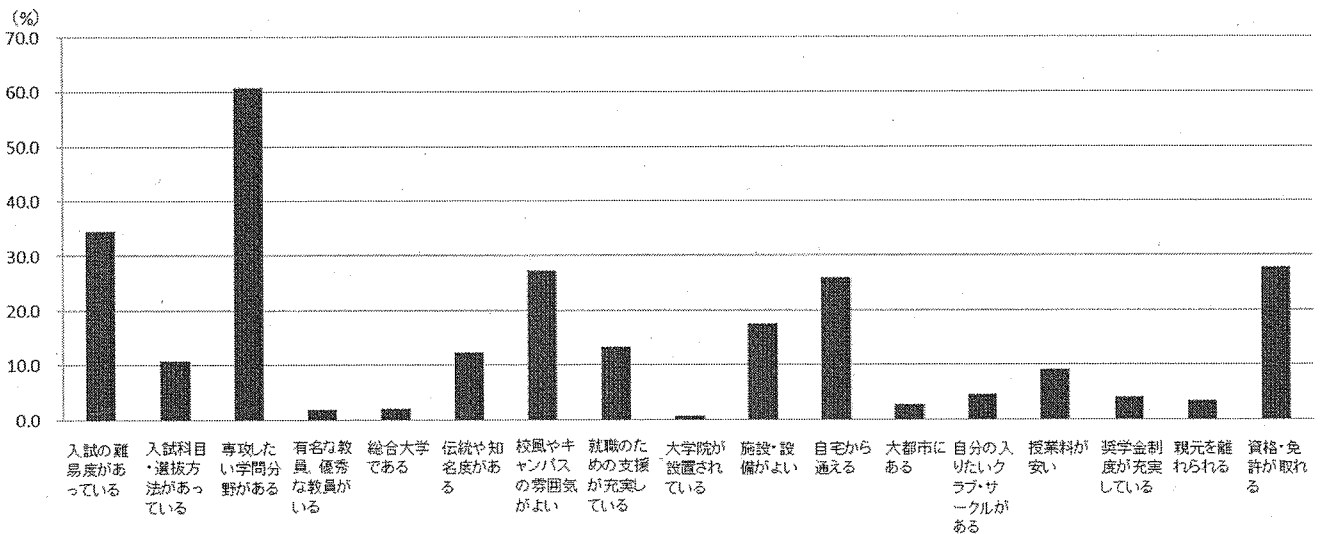


2 県内高等教育機関の魅力向上・充実、学びの選択肢の拡大について

大学・短大への進学を希望する方に対し、進学先を決める際に何を重視するかを尋ねたところ、「専攻したい学問分野がある」が60.9%で最も多く、次いで、「入試の難易度があっている」が34.6%、「資格・免許がとれる」が27.9%、「校風やキャンパスの雰囲気がい」が27.4%、「自宅から通える」が26.0%となっており、県内の高校から県内高等教育機関への入学者の割合を高めるには、学問分野に関する高校生のニーズを的確に捉えることが重要であることが伺えます。

【高校生アンケート】

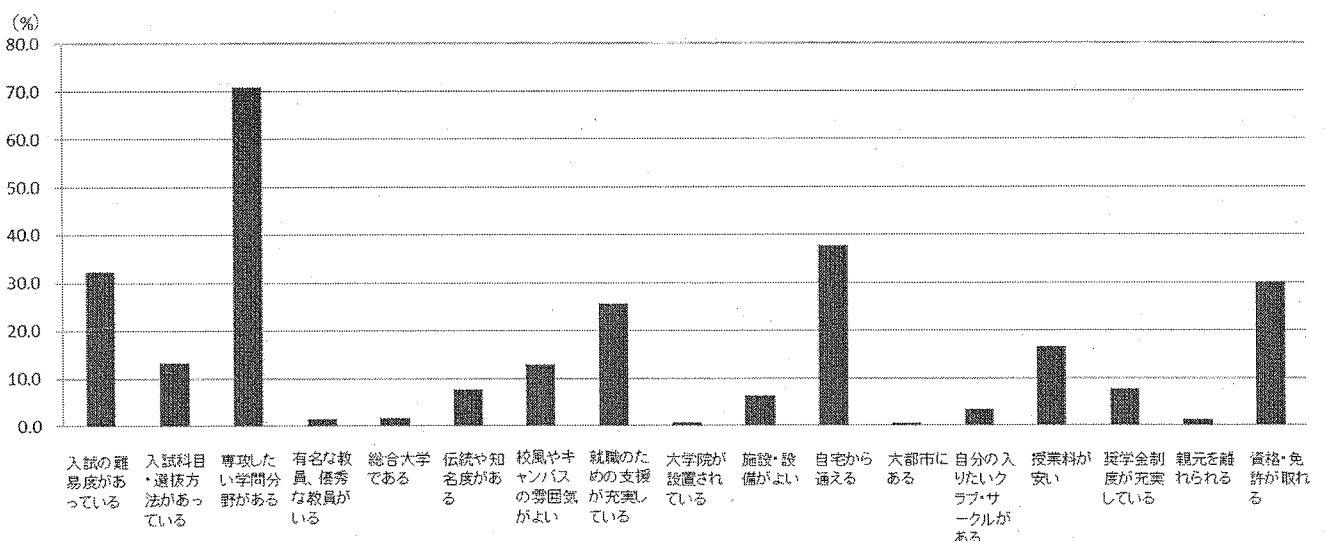
問10 進学先を決める際に何を重視しますか。(複数回答)



なお、同じ質問を保護者にしたところ、「専攻したい学問分野がある」が71.0%と最も多く、次いで、「自宅から通える」が37.9%、「入試の難易度があっている」が32.4%となっており、保護者は「自宅から通える」ことを高校生より重要な判断基準としていることが明らかとなりました。

【保護者アンケート】

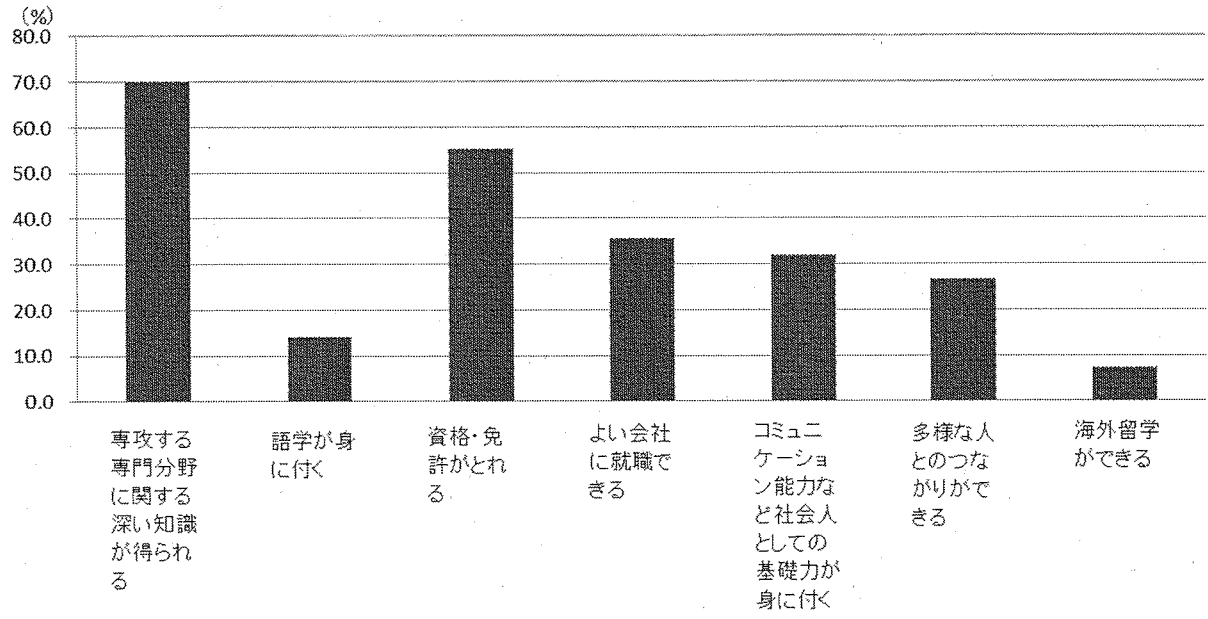
問9 お子様の卒業後の進学先を決める際に何を重視しますか。(複数回答)



また、大学・短大の授業や各種支援サービスに何を期待するかを尋ねたところ、「専攻する専門分野に関する深い知識」が70.1%で最も多く、次いで、「資格・免許がとれる」が55.4%、「よい会社に就職できる」が35.7%となっており、専攻する専門分野についてしっかり学ぶことができる教育カリキュラムや指導体制の充実が最も重要であり、加えて、資格や免許の取得につながることで、そして、それらの結果として、よい会社に就職できることが求められていると考えられます。

【高校生アンケート】

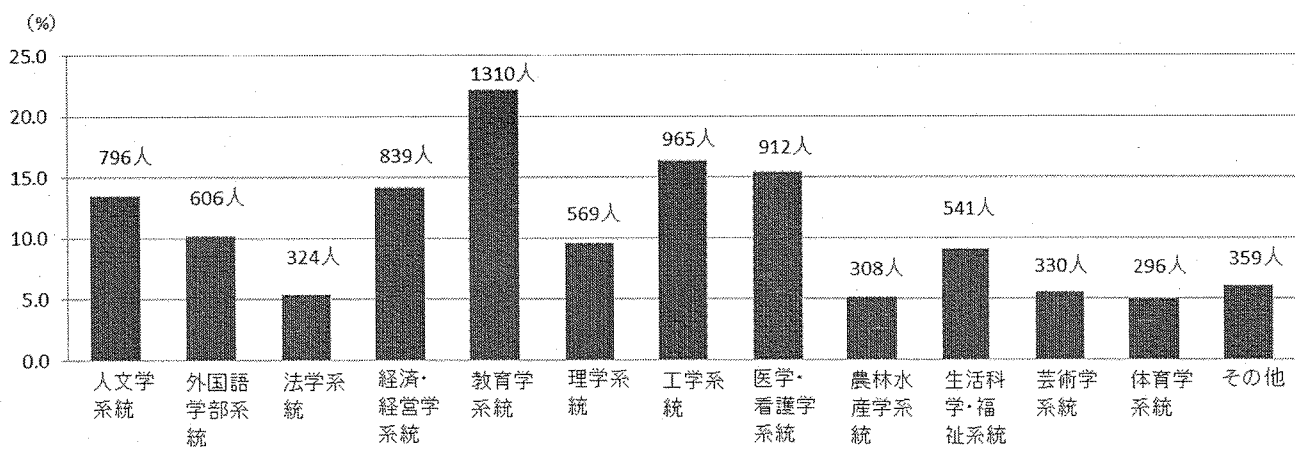
問17 大学・短大の授業や各種支援サービスに何を期待していますか。(複数回答)



どのような専門分野を志望するかを尋ねたところ、「教育学系統」が22.2% (1,310人) で最も多く、次いで、「工学系統」が16.3% (965人)、「医学・看護学系統」が15.4% (912人) となっています。

【高校生アンケート】

問11 どのような専門分野を志望していますか。(複数回答)



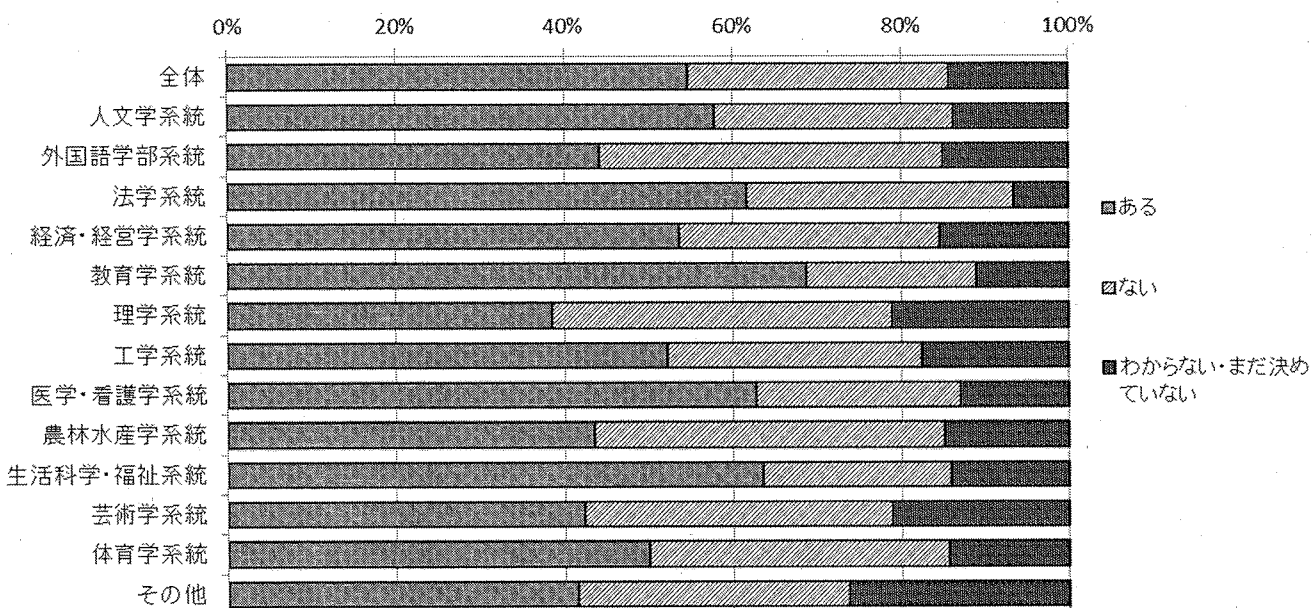
さらに、「自宅から通学できる範囲に志望する大学・短大がありますか」という設問とのクロス集計を行ったところ、「外国語学部系統」、「理学系統」、「農林水産学系統」、「芸術学系統」では、自宅から通学できる範囲に志望する大学・短大が「ない」を選択された方が県全体の平均より多くなっています。一方で、「ない」を選択された方の実数をみると、「工学系統」が286人で最も多く、次いで、「教育学系統」が263人、「経済・経営学系統」が257人となっています。

今後、県内高等教育機関において、専攻・コースの新設・再編を検討する場合には、地域や入試の難易度といった視点も加えたさらなる詳細の分析が必要です。

【高校生アンケート】

問11 どのような専門分野を志望していますか(大学・短大)。(複数回答)

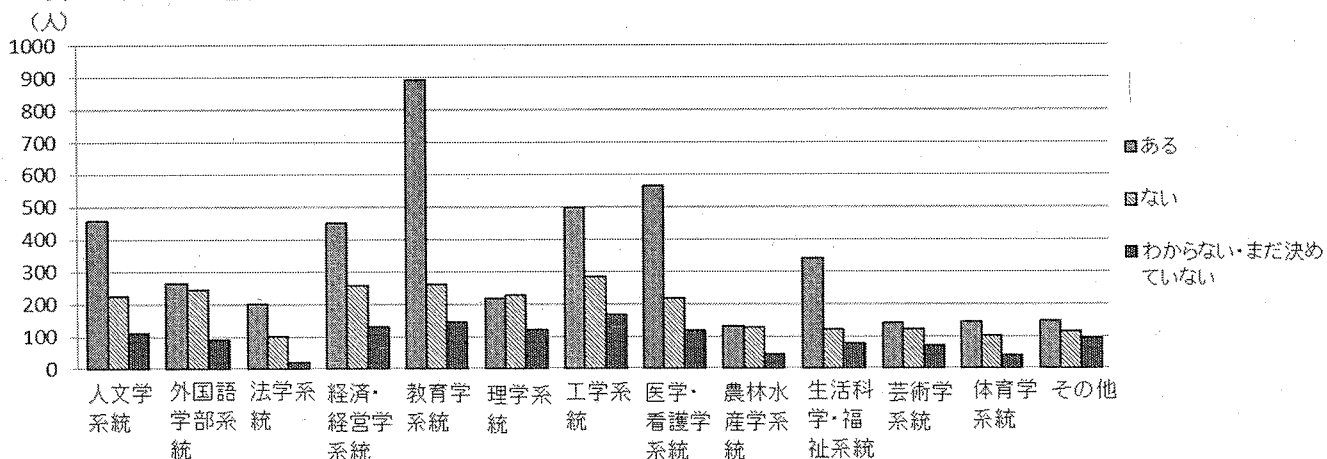
×問14 自宅から通学できる範囲に志望する大学・短大がありますか。



【高校生アンケート】

問11 どのような専門分野を志望していますか(大学・短大)。(複数回答)

×問14 自宅から通学できる範囲に志望する大学・短大がありますか。



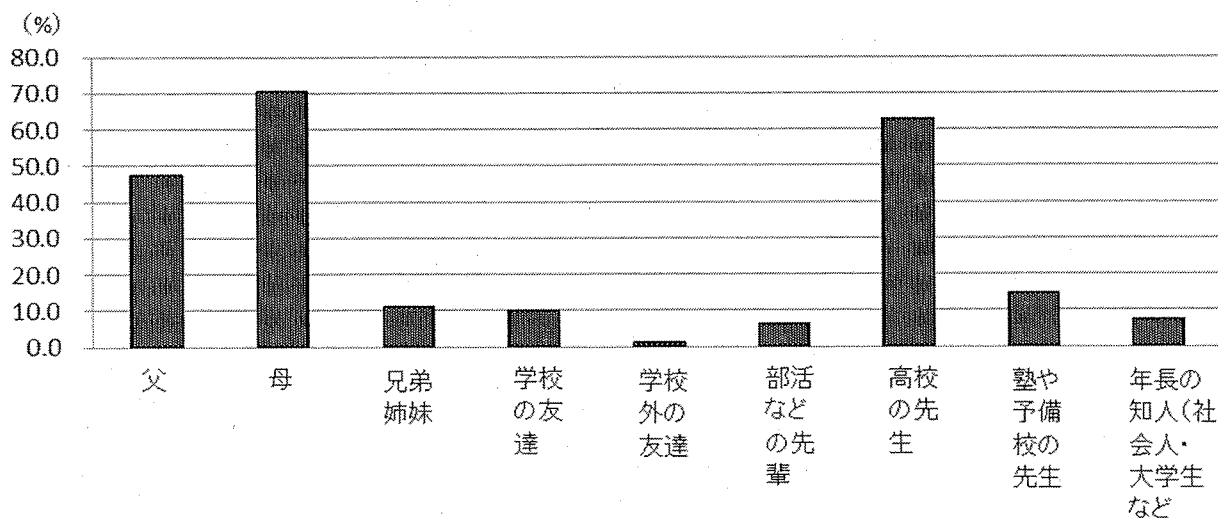
進学先を決める際、誰の意見を重視しているかを高校生に尋ねたところ、「母」が70.3%で最も多く、次いで、「高校の先生」が62.8%、「父」が47.4%となっています。

また、卒業後の進路を決める要素で最も影響が大きいものについて保護者に尋ねたところ、「子どもの考え」が88.2%と圧倒的多数を占めています。

これらのことから、県内高等教育機関の魅力を発信する対象としては、高校生本人は当然のこと、母親や高校の進路指導の教員へのアプローチが重要であると考えられます。

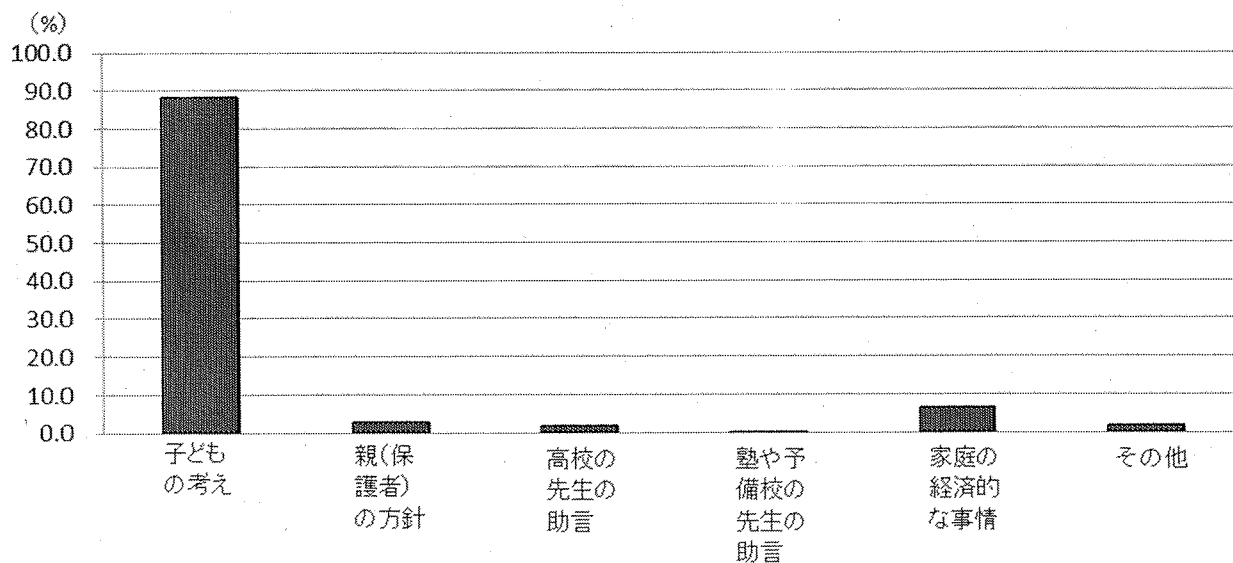
【高校生アンケート】

問12 進学先を決める際、誰の意見を重視しますか。(複数回答)



【保護者アンケート】

問6 お子様の卒業後の進路を決める要素で最も影響が大きいものを教えてください。

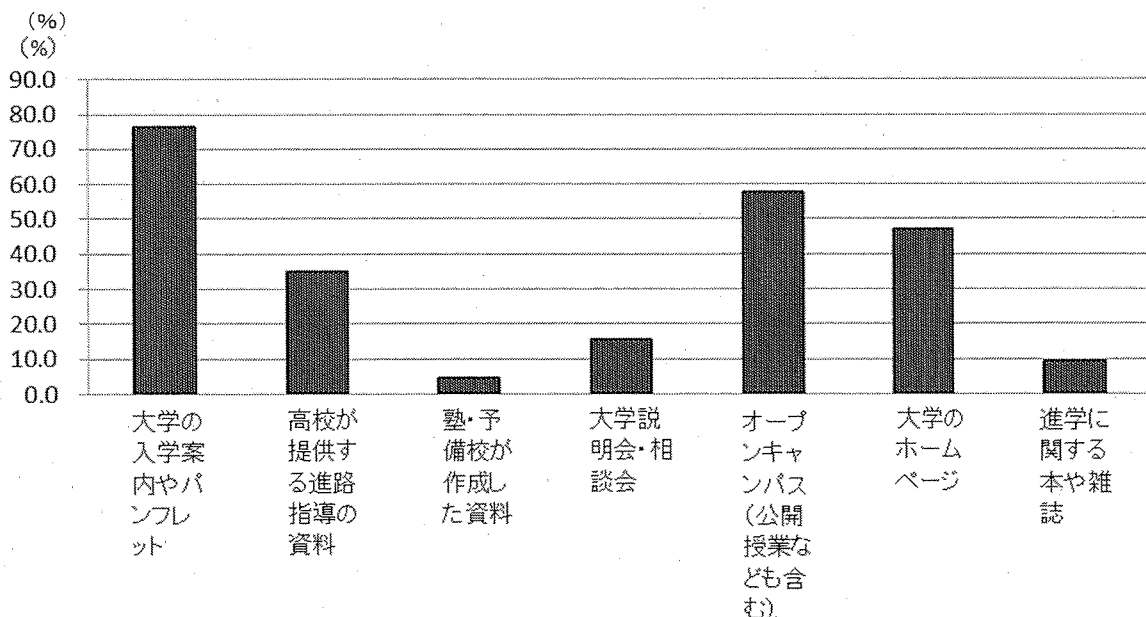


大学・短大に関する情報源として何を参考にしているかを高校生及び保護者に尋ねたところ、高校生及び保護者とも、「大学の入学案内やパンフレット」を選択された方が最も多く、次いで、「オープンキャンパス（公開授業を含む）」となっています。

県内高等教育機関が実施する「オープンキャンパス（公開授業を含む）」に、県内の高校生及び保護者、進路指導の教員のより一層の参加促進を図るための仕掛け、支援が必要であると考えられます。

【高校生アンケート】

問16 大学・短大に関する情報源として何を参考にしていますか。(複数回答)



【保護者アンケート】

問12 大学・短大に関する情報源として何を参考にしていますか。(複数回答)

